

令和 6 年度

事業報告書

公益財団法人豊田都市交通研究所

令和6年度 事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

《事業概要》

令和6年度は、第3次中期ビジョンの2年目として、「まちと暮らしを支える交通」と「交通の安全・安心」の2つの研究領域に関する26件の研究事業を実施しました。特に、第3次中期ビジョンで掲げる地方都市の課題解決やまちづくりを意識した能動的な研究活動に取り組んだ結果、タテシナ会議分科会活動を通じた関係企業・団体との連携による研究成果の他都市への横展開の拡大や、支所との連携による自主研究の創出に繋げるなど、公益法人にふさわしい当研究所ならではの社会貢献活動を展開することができました。

自主研究では、社会の課題を捉えた「豊田市の在日外国人ドライバーの実態に関する研究」や「生活道路における安心感向上政策に関する研究」等の7件を実施しました。受託研究では、「公共ライドシェア導入調査検討業務委託」をはじめ愛知県内外の7都市と連携した「ヒヤリハット体験調査」等の19件を実施しました。

報告会及びセミナーでは、7月に「研究報告会」を、自動運転をテーマに公共交通の運行事業者やその利用者を主なターゲットに据えて、令和5年度までとは趣向と構成を大きく変更し、参加者と共に将来像について考える機会を設けて実施したところ、参加者から大いに好評を得ることができました。また、「豊田まちと交通勉強会（まちべん）」を年9回開催しましたが、特にWRCイベントの一環として開催するなど変化を加えた勉強会では、市民等と活発な意見交換を行うことができました。

研究成果の論文発表は、学術誌、学会等で35編行いました。また、これらの論文発表以外に、国内外において各種講演を7回行うとともに、地域の交通対策を検討する自治体組織への委員参加や交通安全講演、地域や団体からの相談への対応等の社会貢献にも取り組みました。

資料発行事業では、当研究所が実施した事業内容を広く市民に知ってもらうため、機関紙「まちと交通」（87号から90号まで）、「豊田都市交通研究所年報2024年版」等を発行しました。

平成30年度からスタートし7回目の開催となった市長報告会では、交通安全に関わる新たなアプローチとして「住民による安全・安心な生活道路の実現にかかる提言」と、7月の研究報告会での参加者意見を反映させた「新たな地域公共交通計画策定と併せて検討すべき課題・留意事項の提示」について政策提言を行いました。

法人運営としては、基本財産の運用における外債購入の効果と、能動的な研究活動による受託事業拡大が奏功し、2年連続で交通まちづくり支援資金の取崩しを延期することができるなど、持続可能な財政運営に近付けることができました。一方で、新たなネットワークの拡大と情報発信の強化が必要であることと、社会ニーズに適応した現実的な政策提言の創出にむけ、自主研究と受託研究のバランスが重要であることが明確になりました。

《公益目的事業》

1 調査・研究（26件（自主事業7件・受託事業19件））

（1）まちと暮らしを支える交通（10件（自主事業4件・受託事業6件））

ア 公共交通利用にかかる心のバリアフリー政策にかかる研究

（自主事業）

愛知県教育委員会へのヒアリングを踏まえ、市内外の高等特別支援学校の教職員を対象に、生徒の公共交通通学に際しての心のバリア及び教育機関としての対応状況をヒアリングし、実態の傾向を把握しました。これを踏まえて生徒の通学時に同行調査を実施し、当事者の行動の傾向及び教職員の対応などに関する知見を得ることができました。

イ 地域公共交通計画策定を背景とした地域組織の動向と課題

（自主事業）

豊田市では地域住民の生活交通として地域バスが運行されていますが、それを面的に補足する共助運営を含めた交通サービスが検討されています。市からの研究業務委託と連携しながら、令和5年度に実施した自治区アンケートの詳細分析により、共助型の生活交通を適用しやすい地域を抽出しました。また、地域バスの改編を検討していた地域の支所や関係組織などの動向・意向をヒアリングにより確認し、今後の計画策定や円滑な地域運営に資する知見をまとめました。

ウ 徒歩生活圏における小さな交通手段の計画手法に関する研究

（自主事業）

本研究では、人流データを用いて愛知県の徒歩実態を把握するとともに、その実態から「歩いて暮らしやすい地域」の要因を明らかにしました。結果として、全年代の8割は500mまでしか歩いていないこと、豊田市では市の中心部などの拠点地域核、山間部の地域核や交流促進拠点で徒歩移動が多いことが分かりました。また、比較的歩いている地域の特徴として、勾配が少ないこと、生活関連施設に加えて生きがい活動が達成できる施設も充実していることが分かりました。

エ 豊田市の在日外国人ドライバーの実態に関する研究 （自主事業）

2024年問題による自動車運送業における更なるドライバー不足の深刻化を受け、対策の1つとして注目を浴びる外国人材の登用に着目しました。豊田市の自動車運送業者（バス、タクシー、トラック）等における外国人ドライバーの現状、登用に関する課題、更には在日外国人及び、特定技能制度に対する期待について調査を行いました。令和7年度に引き続き調査を進め、外国人ドライバー登用につながる情報を、行政及び自動車運送業者に提供できるよう努めていきます。

オ 地域公共交通関連事業に係る施策業務委託 （受託事業：豊田市）

とよたおいでんバスの運営に関して、地元企業による共助について検討を進めました。令和５年度に豊田市内の企業を対象に行ったアンケート調査の結果を受け、共助につながる企業への特典（当初案：乗車券による還元、協賛企業であることのPR）にどのようなものが考えられるか調査等を進め、市内６企業協力のもと実証運営を実施しました。最終的に当初案の特典に加え、バスに関連する宣伝広告媒体（車体広告他）を含めた施策案を提案しました。

カ 公共ライドシェア導入調査検討業務委託 （受託事業：豊田市）

全国各地の交通空白地で導入が進む公共ライドシェアについて、豊田市で導入が相応しい地域はどこか、事業主体を担うのは誰か、事業スキームの制度設計をどうしていくかといった点を検討しました。また、京都府福知山市と同府京丹後市での先行事例の視察・ヒアリングを行いました。これらを基に、今後の豊田市での公共ライドシェア導入に向けた、運行や事業運営の方向性・課題を整理しました。

キ 高岡地域バス（ふれあいバス）路線改編等検討業務委託

（受託事業：豊田市）

現行の利用実績データの分析、過去に行った住民アンケート調査結果の分析、土橋駅延伸の実証運行結果の分析を整理し、高岡地域バス（ふれあいバス）の運行改善に向けた基本方針と６つの路線改編案を作成しました。また、作成した方針や案は、ふれあいバス運営協議会で地域住民へ説明され、意見交換がなされました。

ク 上郷地域バスの運行評価に係る基礎資料作成業務委託

（受託事業：豊田市）

令和３年１０月にエリアデマンド運行に改編された上郷地域バスについて、デマンド運行実績データによる実態分析及び今年度実施した住民アンケート調査結果の分析に基づき、定時定路線運行からデマンド運行への変更の効果や利用促進策の評価を行いました。その結果を踏まえて、乗合率または稼働率の向上につながる利用促進策の提案を行いました。

ケ 交通移動弱者のためのモビリティのあり方に関する研究業務

（受託事業：トヨタ自動車）

交通弱者である車いす利用者の移動しやすさを向上させる新たなモビリティの開発に向けて、当事者へのヒアリング及びデザインに関するワークショップを実施し、その結果等を踏まえて全国の車いす利用者を対象に移動実態や移動ニーズを調査し、新しいモビリティに関する評価

を行いました。その結果、車いす利用者が移動時に重視している価値を明らかにするとともに、新しいモビリティの課題点を明らかにしました。

コ 郊外在住者の移動実態と送迎に関する研究業務

(受託事業：トヨタ自動車)

郊外居住世帯にとって、自家用車での移動ができない家族の送迎(駅、学校、病院など)にかかる移動コストは、世帯全体の移動コストに占める割合が小さくないと考えられ、送迎する家族にとって一定の負担があると考えられます。そこで世帯の負荷を低減する手段としての「自立移動小型モビリティ」の製品としての可能性を見出すWebアンケート調査を実施し、所有意向に寄与する要因や支払意志額について分析・考察を行い、知見を整理しました。

(2) 交通の安全・安心(16件(自主事業3件・受託事業13件))

ア 危険箇所に関する現地での注意喚起と情報発信を組合せた交通安全啓発の効果検証 (自主事業)

竜神地域会議の提言を基に企画された「移動式赤色回転灯を活用した危険箇所での交通安全啓発」について、高岡地区の4箇所での実証稼働の支援と効果検証を実施しました。その結果、赤色回転灯の設置時には速度抑制の効果があることが認められました。一方で、同一箇所に連日設置することは「慣れ」による速度抑制効果の低減を招く可能性があることも確認されました。以上の成果を踏まえ、今後は地域での交通安全啓発活動への赤色回転灯の活用が検討される予定です。

イ ドラレコデータを応用した交通安全コンテンツの考案 (自主事業)

今年度は、ドライブレコーダデータから得られるNear-crashケースの解析と、元データを応用した交通安全コンテンツの考案を目的としました。その結果、急加速や急減速といった運転行動の背景要因や発生状況に関する詳細な情報を得ることができました。また、交通安全コンテンツとして、急減速の発生状況パターン図や実際の場面の画像集を作成しました。

ウ 生活道路における安心感向上政策に関する研究 (自主事業)

生活道路利用時の安心感を向上させる要素を導き出し、効果的な政策につなげるために、本年度は既往研究の整理を通じて生活道路利用時の安心感の仮説を検討しました。さらに、安心感を構成する要素の計測方法について検討し、交通の「速度」「質量」「発生確率(交通量)」に着眼した安心感計測を目指すべきこと及び当該条件を表現できる「動画」での調査ならびに実空間での検証を念頭に置いた調査設計をすべき点を明らかにしました。

エ 豊田市交通事故データ調査委託（受託事業：豊田市）

新たに入手した令和５年の豊田市内の交通事故データを整理し、既存の交通事故データベースに追加しました。また、このデータベースを基に、令和元年から令和５年までの交通事故マップ（小学校区別）を作成しました。さらに、ここに「豊田市ヒヤリハット体験マップ２０２２」のワースト３地点を重ね、交通事故とヒヤリハット体験を併せた地図としました。

オ とよたの交通事故作成委託（受託事業：豊田市交通安全市民会議）

令和６年中に豊田市で発生した交通事故のデータ（豊田警察署及び足助警察署が作成）を整理し、交通事故発生状況をグラフ化した上で、市民等への公表用冊子として「令和６年の交通事故統計 とよたの交通事故」を作成しました。

カ 高齢者安全運転診断プロジェクト支援業務

（受託事業：一般財団法人トヨタ・モビリティ基金）

高齢者安全運転診断システム「ドラみる」の運営支援及び評価支援を実施しました。運営支援では、主にプロジェクト推進に係る定期協議に参加し、各種技術的な助言等を行いました。評価支援では、システムで出力される診断結果及び診断結果に対するアンケート調査を行い、システムに対する納得感や利用意向、継続意欲の向上に関する分析について取りまとめました。また、試行的な「茶話会」という集団での会合に対する雰囲気や発言量を通した評価を行い、システムとの関連性を検討しました。

キ 井郷地域 交通安全対策実態調査等業務委託（受託事業：豊田市）

井郷地域における生活道路の安全性を高めることを目的に、当該地域で指定されているゾーン３０区域の認知状況や生活道路安全対策の認知状況、並びに地域内の危険箇所について住民へのアンケート調査を実施しました。その結果、ゾーン３０区域の認知度は６割以上と高く、安全対策では当該地域で実施しているものが高い結果でした。また、本調査結果を用いて、当該地域で優先的に交通安全対策を実施すべき地点を６地点選定し、各地点の対策案を提案しました。

ク ２０２４年タテシナ会議児童分科会運営支援（主管）業務委託

（受託事業：一般財団法人トヨタ・モビリティ基金）

自動車関連企業が交通安全に取り組む「タテシナ会議」において、具体的な活動を展開する分科会の一つ「新しい児童への啓発」分科会の主管として、子どもへの効果的な交通安全啓発の方向性・対策・活動内容の検討を主導しました。特にヒヤリハットマップの活用・向上について検

討するワーキングではリーダーを任され、これまでのマップシステム構築によって蓄積してきた知見を活かしながら運営を支援しています。

ケ 名古屋市 通学路の安全対策検討に資するシステム開発に向けた検討 (24年4月～25年3月)

(受託事業：一般財団法人トヨタ・モビリティ基金)

今年度も、引き続き名古屋市において進められる通学路の安全対策を効率的かつ効果的に検討するためのシステム開発プロジェクトに対して、ヒヤリハット体験WEB調査システムの知見を踏まえたアドバイス等を行いました。

コ 2024年度名古屋市ヒヤリハット体験調査

(受託事業：一般財団法人トヨタ・モビリティ基金)

令和4年度に開発したヒヤリハットWeb調査システムを活用し、名古屋市内の小学校16校(全5年生)を対象としてヒヤリハット調査を実施しました。調査結果は、歩行者死亡事故リスクに基づく危険度分析も含め、名古屋市ヒヤリハット体験マップとしてWebマップ上にわかりやすく整理しました。

サ 2024年度池田市ヒヤリハット体験調査

(受託事業：一般財団法人トヨタ・モビリティ基金)

令和4年度に開発したヒヤリハットWeb調査システムを活用し、大阪府池田市内の小学校(全10校)に通う小学5年生とその保護者を対象としてヒヤリハット調査を実施しました。調査結果は、歩行者死亡事故リスクに基づく危険度分析も含め、池田市ヒヤリハット体験マップ2024としてWebマップ上にわかりやすく整理しました。

シ 2024年度刈谷市ヒヤリハット体験調査

(受託事業：一般財団法人トヨタ・モビリティ基金)

令和4年度に開発したヒヤリハットWeb調査システムを活用し、愛知県刈谷市内の小学校(全15校)に通う小学4～6年生とその保護者を対象としてヒヤリハット調査を実施しました。調査結果は、歩行者死亡事故リスクに基づく危険度分析も含め、刈谷市児童・保護者によるヒヤリハット体験マップ2024としてWebマップ上にわかりやすく整理しました。

ス 2024年度川西市ヒヤリハット体験調査

(受託事業：一般財団法人トヨタ・モビリティ基金)

令和4年度に開発したヒヤリハットWeb調査システムを活用し、兵庫県川西市内の中学校(全7校)に通う中学1～3年生とその保護者を

対象としてヒヤリハット調査を実施しました。調査結果は、歩行者死亡事故リスク及び自転車に関連する車両相互死亡事故リスクに基づく危険度分析も含め、川西市ヒヤリハット体験マップ2024としてWebマップ上にわかりやすく整理しました。

セ 2024年度小樽市ヒヤリハット体験調査

（受託事業：一般財団法人トヨタ・モビリティ基金）

令和4年度に開発したヒヤリハットWeb調査システムを活用し、北海道小樽市内の小学校（全16校）に通う小学4～6年生とその保護者、中学校（全12校）通う中学1～3年とその保護者を対象としてヒヤリハット調査を実施しました。調査結果は、歩行者死亡事故リスクに基づく危険度分析も含め、小樽市ヒヤリハット体験マップ2024としてWebマップ上にわかりやすく整理しました。

ソ 2024年度豊橋市ヒヤリハット体験調査

（受託事業：一般財団法人トヨタ・モビリティ基金）

令和4年度に開発したヒヤリハットWeb調査システムを活用し、愛知県豊橋市内の小学校（全18校）に通う小学5年生とその保護者を対象としてヒヤリハット調査を実施しました。調査結果は、歩行者死亡事故リスクに基づく危険度分析も含め、豊橋市ヒヤリハット体験マップ2024としてWebマップ上にわかりやすく整理しました。

タ 2024年度大府市ヒヤリハット体験調査

（受託事業：一般財団法人トヨタ・モビリティ基金）

令和4年度に開発したヒヤリハットWeb調査システムを活用し、愛知県大府市の石ヶ瀬小学校に通う小学4～6年生と、小学1～6年生の保護者を対象としてヒヤリハット調査を実施しました。調査結果は、歩行者死亡事故リスクに基づく危険度分析も含め、大府市ヒヤリハット体験マップ2024としてWebマップ上にわかりやすく整理しました。

上記の自主研究事業及び受託研究事業のほか、研究員が研究代表者として外部の競争的研究資金を獲得し、以下の研究に取り組みました。

- ア マイクロモビリティ（ μM ）と既存交通の混在をふまえた道路交通空間のあり方に関する研究 [公益財団法人大林財団]
- イ 知的障害者の公共交通利用における心のバリアメカニズムの解明
一主に特別支援学校通学児を対象に一 [公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団]
- ウ 生活道路における交通事故リスクと安心感の不整合メカニズムの解明 [公益財団法人三井住友海上福祉財団]

- エ 電源自給検知技術ベースとした交通調査解析 A I システムの開発
〔科学研究費助成事業（基盤 C）〕

さらに、研究分担者として、外部の競争的研究資金によって、以下の研究に取り組みました。

- ア 障がい者の外出活動に影響を及ぼす社会的障壁の解消に向けた試み
と知見 〔科学研究費助成事業（基盤 C）〕
- イ 生活道路ユーザーの納得感の高い法定外表示の設置に関する研究
〔一般財団法人国土技術研究センター〕
- ウ 本当のボンネルフ導入に向けての制度設計-生活道路の人優先の交通
規制 〔一般財団法人住総研〕

2 報告会・セミナー

(1) 研究報告会

日程：令和6年7月2日（火）

場所：豊田産業文化センター小ホール

内容：趣旨説明 山崎 基浩（研究部部長）

活動報告 加藤 秀樹（主幹研究員）

大澤 脩司（主任研究員）

特別講演 「自動運転を活用した地域公共交通とまちづくり」

森川 高行（名古屋大学特任教授）

パネルディスカッション 「地域公共交通における自動運転実装への期待と課題」

コーディネーター 原田 昇（豊田都市交通研究所所長）

パネリスト 森川 高行（名古屋大学特任教授）

松本 幸正（名城大学教授）

境 政義（豊栄交通株式会社代表取締役社長）

参加者：84名（聴講者）

(2) 市長報告会（政策提言）

日程：令和6年8月22日（木）

場所：豊田市役所 南51会議室

内容：提言1「住民による安全・安心な生活道路の実現にかかる提言」

三村 泰広（研究部次長）

提言2「新たな地域公共交通計画策定と併せて検討すべき課題・留意事項の提示」

山崎 基浩（研究部部長）、大澤 脩司（主任研究員）

(3) 豊田まちと交通勉強会（まちべん）

回数：9回

場所：とよた市民活動センターホール、豊田スタジアム会議室等

内容：研究内容発表等（研究員8名、外部講師2名）

参加者：延べ270名（会場207名・オンライン63名）

3 論文発表、著作、講演等

(1) 論文

	国際論文 （査読付き）	国際論文 （概要査読）	国内論文 （査読付き）	国内論文 （査読なし）	合計
まちと暮らしを支える交通	1編	—	3編	6編	10編
交通の安全・安心	5編	—	9編	11編	25編
合計	6編	—	12編	17編	35編

- (2) 著作・資料寄稿
3冊
- (3) 講演
7回
- (4) メディア
1回
- (5) イベント出展
4回

4 資料発行

(1) 機関紙「まちと交通」

- ア 87号（令和6年5月） 特集：ゾーン30プラスの推進にかかる
住民合意
- イ 88号（令和6年8月） 特集：地域自治組織の特性から見た共助
生活交通導入の可能性
- ウ 89号（令和6年11月） 特集：高齢ドライバについて考える
～高齢者講習受講者を対象にしたクラス分け～
- エ 90号（令和7年2月） 特集：竜神地区における移動式赤色回転
灯を用いた交通安全啓発に関する
取組み

(2) 「豊田都市交通研究所年報2024年版（2023年度実績）」（令和6年6月）

(3) 「2024年度研究報告会開催記録」（令和6年8月）

5 研究企画委員会

回	年月日	主 な 議 題
1	令和6年 6月10日	(1) 新任委員・新任研究職員の紹介と挨拶 (2) 研究報告 (3) 退任委員・退任研究員の挨拶
2	令和6年 7月29日	(1) 新任委員の挨拶 (2) 委員長選出 (3) 研究報告
3	令和6年 10月16日	(1) 研究報告
4	令和6年 12月25日	(1) 令和7年度自主研究テーマの企画提案 (2) 退職予定研究員の挨拶
5	令和7年 2月20日	(1) 研究報告 (2) 研究所中期ビジョン評価について

《法人運営》

1 評議員会

回	年月日	内 容
34	令和6年 6月20日	議案第1号：令和5年度決算について 議案第2号：評議員の選任について 議案第3号：理事の選任について 報告第1号：令和5年度事業報告について 報告第2号：令和5年度研究活動の評価について 報告第3号：令和5年度基本財産等の運用状況について 報告第4号：令和6年度事業計画及び収支予算について 報告第5号：特定資産「交通まちづくり支援資金」の取崩しの繰越しについて 報告第6号：研究企画委員会の委員の選任について
35	令和6年 8月22日 (書面決議)	議案第4号：理事の選任について 報告第7号：第34回評議員会の議案第2号の一部訂正について 報告第8号：第34回評議員会の報告第6号の一部訂正について
36	令和7年 2月21日 (書面決議)	議案第5号：評議員の選任について 議案第6号：理事の選任について

2 理事会

回	年月日	内 容
67	令和6年 5月21日	議案第1号：令和5年度事業報告及び決算について 議案第2号：評議員の候補者の選出について 議案第3号：理事の候補者の選出について 議案第4号：研究企画委員会の委員の選任について 議案第5号：旅費規則の一部改正について 議案第6号：第34回定時評議員会の招集について 報告第1号：令和5年度研究活動の評価について 報告第2号：財産の運用状況について 報告第3号：第66回理事会における議案号数の訂正について 報告第4号：理事長、副理事長及び専務理事の職務の執行状況について

68	令和6年 6月20日 (書面決議)	議案第7号 : 理事長の選定について 議案第8号 : 副理事長の選定について 議案第9号 : 専務理事の選定について 議案第10号 : 議案の決議日について
69	令和6年 7月31日 (書面決議)	議案第11号 : 理事の候補者の選出について 議案第12号 : 元城庁舎西棟からの事務所移転費用準備 資金取扱規程の廃止について 議案第13号 : 第35回臨時評議員会の決議の省略の方法について
70	令和6年 9月1日 (書面決議)	議案第14号 : 専務理事の選定について 報告第5号 : 第67回理事会議案第2号の一部訂正について 報告第6号 : 第67回理事会議案第4号の一部訂正について
71	令和6年 11月11日	報告第7号 : 事業の執行状況について 報告第8号 : 財産の運用状況について 報告第9号 : 理事長、副理事長及び専務理事の職務の執行状況について
72	令和6年 12月23日 (書面決議)	議案第15号 : 給与規則の一部改正について 議案第16号 : 特定業務職員就業規則の一部改正について
73	令和7年 2月14日 (書面決議)	議案第17号 : 評議員の候補者の選出について 議案第18号 : 理事の候補者の選出について 議案第19号 : 第36回臨時評議員会の決議の省略の方法について
74	令和7年 3月24日	議案第20号 : 令和7年度事業計画及び収支予算について 議案第21号 : 就業規則の一部改正について 議案第22号 : 特定業務職員就業規則の一部改正について 議案第23号 : 給与規則の一部改正について 議案第24号 : 旅費規則の一部改正について 議案第25号 : 特定資産「交通まちづくり支援資金」の 取崩しの繰越しについて 議案第26号 : 役員賠償責任保険への加入について 議案第27号 : 研究企画委員会の委員の選任について 議案第28号 : 重要な使用人の選任について 議案第29号 : 評議員の候補者の選出について

		議案第 30 号：監事の候補者の選出について 議案第 31 号：第 37 回臨時評議員会の決議の省略の方法について
		報告第 10 号：立入検査の結果について 報告第 11 号：令和 6 年度予算の執行状況及び財産の運用状況について 報告第 12 号：理事長、副理事長及び専務理事の職務の執行状況について

3 監事会

回	年月日	内 容
15	令和 6 年 5 月 9 日	業務・会計監査

《附属明細書》

令和 6 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成していません。